

愛知県指定史跡

うり 宇利城

(愛知県新城市)



宇利城遠景（南から）

宇利城の概要

宇利城は昭和 32 年 9 月 6 日に愛知県の史跡に指定された城郭です。

主郭は標高 165mの山上に所在し、山麓との比高差は 90mあります。城の周辺は、東西両側に深い開析谷が形成され、山麓は田んぼなどの平地となっています。南側が城郭の正面、北側は城郭の背後に相当し、尾根続きの地形が形成されています。

宇利城がある地域は西方を除く三方に峠を抱える交通の要所地であり、静岡県浜松市三ヶ日町や引佐町などに至る遠江国境に近い位置に所在します。また、城南方の対面する山地には比丘尼城が置かれ、両城に挟まれた地域には「市場」、「城屋敷」、「御屋敷」、「馬場」と呼ばれる地名が残ることから、領主の館や集落が存在したことも想定されています。



宇利城の主郭（西から）

宇利城の歴史

宇利城は、熊谷重実が文明年間(1469～1486)に築城したと伝えられています。重実は、鎌倉時代に活躍した熊谷次郎直実の末裔とされ、元弘3年(1333)に足利尊氏の六波羅攻めに従い、その戦功として三河八名郡を賜った熊谷直鎮の5代後の人物とも言われています。

その後城主となった熊谷実長は今川氏に属し、享禄2年(1529)に三河統一を目指す松平清康に攻められました。この「宇利城の戦い」で城主らは城を明け渡し、その後は菅沼定則や近藤康用らが入城しました。徳川家康による遠江平定後、近藤康用は柿本城に居城を移したとされ、その後の宇利城の状況は不明とされています。

縄張りの様子

中心となる主郭は山頂に位置し、南面を除いた周囲に土塁を巡らした東西40m、南北36mの形となっています。この北端には櫓跡と考えられる幅20m、高さ1.5mの高まりが残っています。その北側は比高差10mの切岸状の崖となり、崖下には「納所平」と呼ばれる東西25mで南北20mの平坦地が所在しています。この場所には横堀が掘られ、背後の裏山へ続く道を遮断しています。



宇利城の石積み遺構

主郭の東側には37m×19mの長方形をした「姫御殿跡」が所在し、主郭より4mほど高くなっています。その南東斜面下には、主郭と姫御殿に通じる通路を抑えるべく前衛的な曲輪の機能を有していると考えられるの平坦地が置かれています。その平坦地から東側にさらに延びた尾根上に「御馬屋平」と呼ばれる曲輪があり、城地の東から北側付近の防備を高めるよう斜面には堀が設けられています。このほか、城内には石垣のような石積み遺構にも注意して見学してみてください。

《宇利城跡へのアクセス》

所在の場所: 愛知県新城市中宇利字仁田地内

自家用車: 県道81号、中宇利交差点付近に駐車場あり。そこから、徒歩で約30分。

《お問い合わせ》

〒441-1305

愛知県新城市竹広字信玄原552

新城市設楽原歴史資料館

TEL・FAX 0536-22-0673

E-mail shitara@city.shinshiro.lg.jp

(火曜・年末年始休館)

